

ため池と開墾

江戸時代、四国の瀬戸内海側では水がかりの良くない土地を切り拓くために、ため池の築造が行われました。香川県観音寺市の井関池と愛媛県今治市の門口池をご紹介します。

■井関池と大野原（香川県観音寺市）

江戸時代初めまで、大野原（現観音寺市）は荒涼たる土地でしたが、水利に恵まれば良田になると見込まれていました。寛永 20 年（1643）に近江の豪商平田與一左衛門による大野原開墾の願い出が丸亀藩から許可を得て、水源となる井関池の築造が始まりました。築造費用は平田家が持ち、四国だけでなく中国方面からも日雇いの人々が集まり、普請が行われました。突貫工事により、着工から 7 か月後の正保元年（1644）に井関池は完成しましたが、工事を急いだためか、半年後には決壊しました。翌年復旧したものの再び大雨で決壊し、慶安元年（1648）には 3 度目の決壊が起こり、入植した農民の中には逃げ出す者も出始めました。承応 3 年（1654）に藩主導で井関池の修復が行われ、ようやく井関池は安定し、大野原開墾の基礎が固められました。＜讃岐のため池誌編さん委員会編「讃岐のため池誌」2000 年、新修大野原町誌編さん委員会編「新修大野原町誌」2005 年など＞



■門口池と古谷台地（愛媛県今治市）

朝倉村（現今治市）の古谷（こや）台地は水がかりが悪く、水不足に悩まされていました。水を求める村人の切実な願いに応じて、江戸時代中期に長井忠五右衛門は和算と土木技術の知識を活かして、門口（もんぐち）池の築造と水路建設の計画を立てました。この計画は村人の支持と今治藩の許可を得て、門口池は村中総がかりの出役により起工から数年で完成しました。さらに門口池の水を古谷台地に送るため、忠五右衛門は提灯測量により万灯山の中腹沿いに水路を開き、多伎（たき）川の上に水道橋をつくるなどして、古谷台地 40 町歩を完全に水田化しました。宝暦 5 年（1755）の忠五右衛門の死から 160 年以上経った大正 7 年（1918）に門口池の堤防が決壊しましたが、原因は忠五右衛門が堤防を嵩上げしないように警告していたにもかかわらず、門口池の堤防を約 3m 嵩上げしたためとされています。堤防下には愛媛県が行った門口池改修事業の記念碑が建立されています。＜朝倉村誌編さん委員会編「朝倉村誌下巻」1986 年、今治市教育研究所編「今治のくらし」2014 年＞

